

件名	「足立区人権施策推進懇談会」の実施結果について				
所管部課名	総務部総務課				
内容	<p>足立区人権推進指針に基づき、人権施策の推進を目的として「足立区人権施策推進懇談会」を実施したので報告する。</p> <p><b>1 実施日時</b> 令和8年3月18日（水） 10時30分から12時30分</p> <p><b>2 出席者</b> 17名（有識者2名、外国人3名、人権擁護委員2名、区職員10名） ※ 出席者リストは、項番6のとおり</p> <p><b>3 議題</b> 「多文化共生社会の実現に向けて～外国人の人権問題～」をテーマに、主に、以下3点について意見を伺った。 (1) 「言葉の壁」について (2) 「文化・制度の違いの理解」について (3) 「差別・偏見」について</p> <p><b>4 主なご意見</b></p>				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="304 1122 592 1193">項目</th> <th data-bbox="592 1122 1489 1193">主なご意見</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="304 1193 592 2107">1 言葉の壁</td> <td data-bbox="592 1193 1489 2107"> <p>&lt;大人に関すること&gt;</p> <p><b>1 こどもたち以上に「大人」は壁が高い</b> (1) 仕事や育児中、日本語の勉強をする時間をとるのが難しい。留学で日本に来ている人はよいが「生活・就労」の方の日本語能力向上が困難である。 (2) 保護者の日本語能力が低いと、子の学校配布物や提出物、調整や受験の手続きなどが困難である。 (3) 保護者が日本語をできないと、子が親を敬わないことがある。外国人の親子が同じ言語で話せる支援としてはどうか。 <u>ア オンライン指導などは効果的と考える。</u> <u>イ 日本語ボランティア教室の実施はぜひ継続をしてほしい。</u> <u>ウ 浜松市では外国人の子の不就学ゼロを目指し転入者への案内や就学状況の把握、支援をしている。</u></p> <p><b>2 多言語表記の拡充に取り組んでほしい</b> (1) 生活の様々なところ（ゴミ出し・公共施設等）で、案内板の理解が難しい。 <u>ア 日本語・英語に加え、中国・韓国・ミャンマー語など多言語表記の推進をしてほしい。</u> <u>イ HPや配布物など外国人を対象とする案内は「やさしい日本語」の使用を充実させてほしい。</u></p> </td> </tr> </tbody> </table>	項目	主なご意見	1 言葉の壁	<p>&lt;大人に関すること&gt;</p> <p><b>1 こどもたち以上に「大人」は壁が高い</b> (1) 仕事や育児中、日本語の勉強をする時間をとるのが難しい。留学で日本に来ている人はよいが「生活・就労」の方の日本語能力向上が困難である。 (2) 保護者の日本語能力が低いと、子の学校配布物や提出物、調整や受験の手続きなどが困難である。 (3) 保護者が日本語をできないと、子が親を敬わないことがある。外国人の親子が同じ言語で話せる支援としてはどうか。 <u>ア オンライン指導などは効果的と考える。</u> <u>イ 日本語ボランティア教室の実施はぜひ継続をしてほしい。</u> <u>ウ 浜松市では外国人の子の不就学ゼロを目指し転入者への案内や就学状況の把握、支援をしている。</u></p> <p><b>2 多言語表記の拡充に取り組んでほしい</b> (1) 生活の様々なところ（ゴミ出し・公共施設等）で、案内板の理解が難しい。 <u>ア 日本語・英語に加え、中国・韓国・ミャンマー語など多言語表記の推進をしてほしい。</u> <u>イ HPや配布物など外国人を対象とする案内は「やさしい日本語」の使用を充実させてほしい。</u></p>
項目	主なご意見				
1 言葉の壁	<p>&lt;大人に関すること&gt;</p> <p><b>1 こどもたち以上に「大人」は壁が高い</b> (1) 仕事や育児中、日本語の勉強をする時間をとるのが難しい。留学で日本に来ている人はよいが「生活・就労」の方の日本語能力向上が困難である。 (2) 保護者の日本語能力が低いと、子の学校配布物や提出物、調整や受験の手続きなどが困難である。 (3) 保護者が日本語をできないと、子が親を敬わないことがある。外国人の親子が同じ言語で話せる支援としてはどうか。 <u>ア オンライン指導などは効果的と考える。</u> <u>イ 日本語ボランティア教室の実施はぜひ継続をしてほしい。</u> <u>ウ 浜松市では外国人の子の不就学ゼロを目指し転入者への案内や就学状況の把握、支援をしている。</u></p> <p><b>2 多言語表記の拡充に取り組んでほしい</b> (1) 生活の様々なところ（ゴミ出し・公共施設等）で、案内板の理解が難しい。 <u>ア 日本語・英語に加え、中国・韓国・ミャンマー語など多言語表記の推進をしてほしい。</u> <u>イ HPや配布物など外国人を対象とする案内は「やさしい日本語」の使用を充実させてほしい。</u></p>				

		<p>&lt;こどもに関すること&gt;</p> <p>1 こどもの特性によって支援方法を柔軟にしてほしい</p> <p>(1) こどもの背景や性格の違いにより、日本語習得時間に差が出る。</p> <p>(2) 日本語指導を心のよりどころにしている子もいる。</p> <p>(3) 言語能力が低いことで特別支援教室に通学している子もいる。</p> <p><u>ア 日本語講師の派遣時間延長など、こどもの特性に応じた支援制度があるとよい。</u></p>
2 文化・制度の違いの理解		<p>1 生活の中に多言語表記を充実させてほしい</p> <p>(1) ゴミ出しでのトラブル（分別・指定の曜日など）が多い。</p> <p><u>ア 日本語・英語だけでなく東南アジアの言語も表記をしてほしい。</u></p> <p>2 日本人も外国人への理解を深めてほしい</p> <p>(1) 日本人が海外に行って考え方や習慣の違いに戸惑うのと同様である。</p> <p>(2) 日本の挨拶や配慮の心は素晴らしい。</p> <p><u>ア 多文化共生とは、海外の文化を尊重することでもある、双方が歩み寄り認め合うことが大切である。</u></p> <p><u>イ 埼玉県ではNPOと協力し、日本人と外国人との間に入ってトラブルサポートをしているところもある。</u></p>
3 差別・偏見		<p>1 いまも差別や偏見はある</p> <p>(1) 外国籍であることを隠して生活している友人がいる一方で、通称名ではなく本名を使用している人も増えており、以前より外国人への理解が進んでいるようにも感じている。</p> <p>(2) 日本人は顔の色・言葉などで無視をする人もいる。</p> <p>(3) 日本人は海外に行く人が少なく、外国の人や文化に接する機会が少ない。</p> <p>(4) 国と国との政治的な対立を在住外国人に向けられることが多い。</p> <p>(5) 外国人の増加＝治安悪化や犯罪増加ではない。</p> <p>(6) 外国人も日本人と話したいと思っている人も多い。</p> <p>(7) 転入者は能力の高い方が多く、一緒に学び成長し、日本を豊かにできる。</p> <p>(8) こどもよりも大人の偏見が強く、それがこどもに伝わっている。大人がこどもに正しい知識や理解を教えることが大切。</p> <p><u>ア 差別ではないと思っていることも差別となることがある。差別の事象を例示しはっきりと周知することが大切である。</u></p> <p><u>イ 日本社会全体、日本人が外国人への理解をする姿勢をより意識してほしい（他文化理解・交流・やさしい日本語・多言語化など）。</u></p> <p><u>ウ 人権擁護委員が学校で人権の授業を行う人権教室の活用など、こどもたちへの人権教育推進をしてほしい。</u></p>

## 5 今後の方針

実施結果を庁議で共有するとともに、総務課の人権啓発事業に活かしていく。  
また、関係所管に直接情報提供して、事業への反映等について検討していく。

## 6 出席者

種別	氏名	所属
有識者	永吉 希久子	東京大学社会科学研究所教授 足立区外国人実態調査
有識者	田村 拓	一般社団法人EDAS理事長 東京都多文化共生推進委員会委員
外国人	華 文治 (中国)	基本構想外国人グループ 足立区多文化共生推進会議委員長
外国人	趙 錫香 (韓国)	外国人支援団体 足立区多文化共生推進会議委員
外国人	池田 ネニタ (フィリピン)	外国語・文化交流ボランティア 足立区多文化共生推進会議委員
人権擁護 委員	森 公任	足立地区人権擁護委員代表 (弁護士)
人権擁護 委員	宗像 文子	足立地区人権擁護委員
区職員	松野 美幸	総務部長
区職員	松本 一真	総務課長
区職員	野中 尋	総務課人権推進係長
区職員	岡崎 充希	総務課人権推進係
区職員	茂木 聡直	地域のちから推進部長
区職員	江川 博文	地域調整課長
区職員	鈴木 健太	地域調整課多文化共生担当係長
区職員	秦 章雄	課税課長
区職員	岸柳 直人	企業経営支援課長
区職員	秋元 康裕	教育政策課長